

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立東与賀中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成28年4月19日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A, 数学A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B, 数学B〕
・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況, 児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

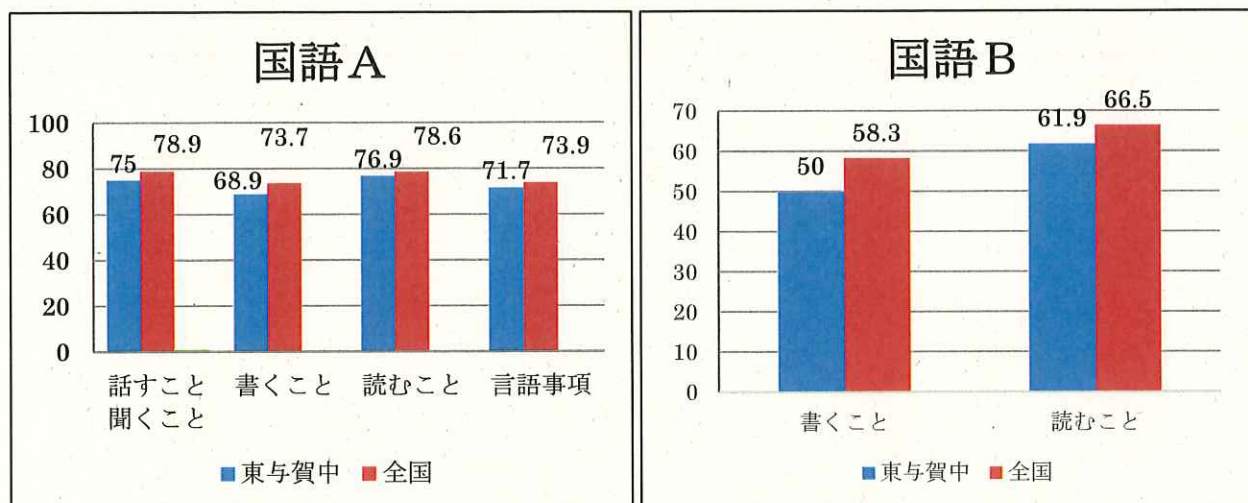
■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は中学3年生(小学6年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と数学(算数)と理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

1 国語

(1) 結果の概要

学習指導要領の領域等の平均正答率の状況



国語A、国語Bのどちらも、すべての領域において全国平均を下回っている。特に、国語A、国語Bともに「書くこと」領域での正答率の差が大きく、条件に合わせて書くことの誤答が多い。また、記述式の間に無回答率が高い。

(2) 各領域における成果と課題

話すこと・聞くこと

- ほとんどの問題の正答率が全国平均を下回っていた。特に、意図に合った質問として適切なものを選択する問題は正答率が70.9%であり、全国平均78.1%を大きく下回っていた。国語の授業だけではなく、日常生活や集会でも話し手の意図を考えて聞いたり、聞き手を意識して話したりする機会を多くもつことで、話すこと・聞くことの力を付ける必要がある。

書くこと

- ほとんどの問題の正答率が全国平均を大きく下回り、他の領域に比べて無解答率が高い傾向が見られた。特に、条件に合わせて書く問題は、その傾向が顕著であった。普段の授業で「書くこと」に力を入れて取り組んでいるが、書くことにやや抵抗感をもつ生徒も少なくない。また、書いても条件に合っていなかったり、推敲ができていなかったりしている。今後は、書くことへの抵抗感を減らすように継続して書く機会を多く設ける。さらに、生活作文や授業の中でも、条件を付けて書く機会を増やすように努めて、条件に合わせて書く力を付けさせる必要がある。

読むこと

- 「読むこと」は県平均正答率が同じであり、全国平均正答率より1.7ポイント下回っていた。昨年度に比べて、正答率が高くなっている。朝読書の継続により、読むことへの抵抗が低くなっている。今後は、読んで自分の考えを書く等、書くこととのつながりをもたせた指導が必要である。

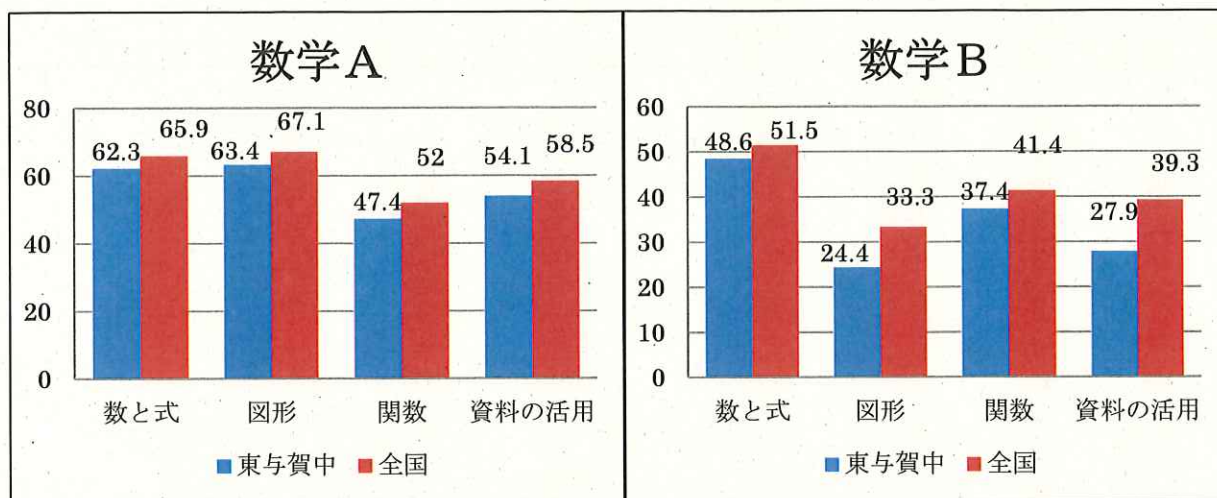
言語事項

- 県平均正答率を上回っているものもあるが、語句の意味の選択や歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問が県平均正答率を下回っていた。また、漢字の書く間で、「研究」は県平均正答率を6.3ポイント下回り、「植える」は県平均正答率を5.7ポイント下回っていた。小学校高学年からの漢字の読み書きの復習の徹底を図る必要がある。

2 数学

(1) 結果

学習指導要領の領域等の全国正答率との比較



数学A、数学Bのどちらも、すべての領域において全国正答率を下回っている。問題形式ごとの正答率を見ると、自然数、作図の方法、証明等の基礎基本の決まりごとを正しく理解できている。ただし、角度の求め方で、通常の問題と条件が変わっているものができていない。さらに、文章を読み取って、合同条件、一次関数の式を求める問題ができていなかった。

(2) 各領域における成果と課題

数と式

- 数学Aでは、自然数の意味を理解している問題は、全国正答率を2.4ポイント上回っていた。一方で、正の数と負の数の加法の計算では全国正答率を7.9ポイント下回っていた。不等式の意味を読み取るでは、全国正答率を12.9ポイント下回っていた。今後、数学的な技能の定着をはかる必要がある。

図形

- 数学Aの問は、半数以上が全国正答率を上回っていた。ただし、知識・理解を問う問題は全国正答率を下回っているものが多かった。特に、証明などの筋道を立てて説明する記述式の問題に弱い傾向が見られた。

関数

- 数学A・数学Bのグラフから式を求める問は、全国正答率を上回っていた。ただし、それ以外は全国正答率を下回っていた。

資料の活用

- 資料を読み取る問題では全国平均を若干上回ったものの、全体的に全国正答率を下回っていた。特に確率の分野や、数学的用語を理解していないために解けていない問題があった。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

〈調査項目〉生活習慣について	本校%	県平均%	全国平均%
朝食を毎日食べている。	81.4	85.8	83.3
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	33.7	34.4	30.8
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	59.3	59.7	55.9
平日2時間以上テレビを見る。	59.4	55.8	48.7
平日2時間以上ゲームをする。(TVゲーム・パソコン・携帯型等も含む)	34.8	29.8	34.9
平日2時間以上通話やメール、インターネットをする。	27.9	25.4	30.7
平日読書を30分以上している。	34.9	31.5	28.2

起床、就寝については、全国平均を上回り、早寝、早起きの生活習慣が身についている。規則正しい生活リズムが定着しているのは、家庭の協力によるものである。

平日に2時間以上テレビを見る生徒が59.4%、2時間以上ゲームをしたり、メールやインターネットをしたりする生徒も34.8%以上おり、いずれも県平均を上回っている。

家庭では、34.9%の生徒が毎日30分以上読書をしている。一方で、65%の生徒にはほとんど読書の習慣が身についておらず、そのうち28%の生徒は「全く読書しない」と答えている。

〈調査項目〉家庭学習について	本校%	県平均%	全国平均%
自分で、計画を立てて勉強をしている。(どちらかといえばしているも含む)	43.1	48.8	48.4
平日2時間以上勉強している。	10.5	6.3	5.5
平日、2時間より少なく勉強している。	65.1	69.8	60.3
家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	94.2	92.7	90.1
家で、授業の予習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	44.2	33.7	34.2
家で、授業の復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	67.5	56.9	51.0

家庭で計画的に勉強をしている生徒の割合は43%であり、全国平均、県平均を下回っている。ただし、平日、2時間以上の学習をしている生徒は全体の約11%で、全国平均、県平均を上回っている。また、勉強時間が1時間に満たない生徒が全体の33%を占めており、全くしない生徒も28%いる。学習に対する意識の差、学習時間の差が大きいことが課題である。

家庭学習では、宿題ができていない割合が94.2%と高い反面、予習は44.2%、復習は67.5%の割合の生徒しか取り組めていないようだ。特に復習は、より深い理解や定着につながる重要な学習活動であり、しっかり家庭学習に取り組んでもらいたい。

4 学力向上及び生活習慣や学習習慣の改善のための取組

【学校では】

○各教科で、復習問題や練習問題のプリント、授業内容をノートにまとめる等の課題を出しています。

○毎日の自主学習ノートには、その日に学習したことの復習や各教科の小テストに向けての学習を行い、基本的な内容を確実に理解するように指導しています。

○授業では、理解度を把握するために、きめ細かく小テスト等を行います。基本的な内容の理解が深まるように授業中に学び合い（ペア学習・グループ学習）を取り入れ、問題の解き方・考え方などを学んでいます。さらに、学んだことを活用して、書いたり、話したりして、活用力向上に力を入れています。

○語彙力は、授業だけではなく、日常生活の中でついていくものです。多くの体験活動の機会を設け、体験をすることで自分の思いや考えを書いたり、話したり、表現する機会を多く設けるようにしています。

○各教科の授業では、ICT利活用を行い、生徒の理解を助けるようにしています。また、「めあて」と「まとめ」の提示をどの教科でも行い、自分のその日の理解度を確認するようにしています。

【ご家庭では】

○規則正しい生活ができているお子さんが多く、ご家庭の協力によって子ども達は成長できています。

○家庭学習については、決まった時間に決まった場所で学習ができるように学習環境を整え、子ども達の学習意欲を高めていきましょう。保護者の方の声掛けや励ましが、子どもたちのやる気につながります。

○学習の結果も大切ですが、学習の過程（学習内容、学習方法、理解度）についても見守ってください。良いところをほめ、励ますことで意欲が高まっていくと思います。定期テスト前には、学習計画を立てて、計画的に学習を進めるようにしています。

○テレビ、ゲーム、インターネットの時間はご家庭でルールを決めて守らせ、バランスのよい時間の過ごし方ができるように励ましましょう。パソコン等の通信機器については、使用方法や使用時間についての把握をお願いします。